

City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか?身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS で検索

2025年万博 大阪開催が決定

2025年に開催される万国博覧会(万博)の開催地が大阪に決定した。国や財界、大阪府と大阪市の連携による、まさにオールジャパンの勝利だった。開催内容の構想や、万博がもたらす経済効果はどのようなものなのか。大阪府 万博誘致推進室に取材した。

位置づけは 最先端技術の実験場

会の実験場」として位置づけられている。想定来場者数は約2,800万人、経済波及効果は約2兆円と試算されている。

開催期間は2025年5月3日～11月3日の185日間。会場は大阪の夢洲(ゆめしま)で、甲子園球場約100個分の390ヘクタールのうち155ヘクタールが会場予定地とされている。テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。貧困やエネルギー、少子高齢化など「国連の持続可能な開発目標(SDGs)」の課題を解決するため、世界から最先端技術や英知を集める「未来社

2025年に生まれる 新たな技術の姿とは

そもそも万博とは、新しい技術や商品が生まれ、生活が便利になる「きっかけ」づくりとなるもの。1970年の大阪万博では電気自動車や動く歩道、2005年の愛知万博ではAEDやICチップ入り入場券などが導入された。では、2025年の万博はどのような技術のお披露目の場となるのだろうか。

経済産業省が発表した立候補申請文書では、VR(仮想現実)などを活用し、インターネット上の仮想会場であるバーチャル会場によって、誰でも仮想体験を可能にするなど新しいコミュニケーション方

法を提案するとしている。会場の構成としては、「太陽の塔」のようなシンボルは設けず、パビリオンなどを自然に配置させる「分散型」とし、大きく三つのエリア(パビリオンワールド、グリーンワールド、ウォーターワールド)から構成され、「空」と呼ばれる吹き抜けの広場を5つ設置する。

経済効果を 北摂エリアへ

北摂エリアでも「万博の開催で増加する来阪者に対し、うまくアプローチできれば経済効果が

(上)ウォーターワールド
水上ホテルやVIP用のレセプション施設で構成されるエリア
(左)グリーンワールド
再生可能エネルギー施設や広場、グランピング施設などで構成されるエリア
(右)パビリオンワールド
パビリオンをランダムに配置するエリア

得られると思います。万博来場前後に訪れてもらえるエリアとなるように、イベントなどのプロモーションを実施するなど、2025年万博と連携して相乗効果で盛り上げたい」と担当者。

この2025年万博を起点に、宿泊や交通などのインフラだけではなく、民間事業者もインバウンドを見据えた企画を考えていくべきだろう。



万博誘致が大阪に決定した瞬間、誘致担当者たちが歓喜する姿。



【写真提供】
経済産業省

大阪の外国人訪問者数が急伸 注目すべき世界の4都市に

国際的な市場調査会社のユーロモニターインターナショナルが発表した最新の調査レポートによると、2017年、世界で最も外国人訪問者数の多かった都市TOP100のうち、日本は14位の東京をはじめとして大阪、京都、千葉の4都市がランクインした。大阪は、2017年の訪問客数が前年比17%増の660万5,900人で30位に。2012年から2017年までの年間平均増加率でみると、ランキングTOP10都市が3.9%であるのに対し、大阪は43%で113ランクもアップ。同レポートで注目すべき世界の4都市のひとつとしてピックアップされている。

また大阪府では、2020年の外国人旅行者数の目標値1,300万人に対し、2017年度時点で1,110万人の実績を達成。消費額や宿泊者数などの各目標値においても順調に推移している。

コト消費への仕掛けで 大阪の魅力を発信

大阪府及び大阪市では、共通の戦略として効果的な施策を展開し、魅力向上をはかるため、分野ごとに目指すべき都市像を設定した「大阪都市魅力創造戦略2020」を策定している。2018年9月には、府市の担当者らと有識者から成る会議が実施され、目標値の到達度や施策の進捗状況の確認が行われた。

会議では、「数呼び込む」施策に加え、Wi-Fi環境や多言語表記の案内板の整備、トイレの美化など、「質を上げる」取り組みが大切との意見があった。府では引き続き、観光客の受け入れの環境整備にかかる費用に対して補助を実施す

るなどして市町村をサポートし、整備を進めていく。

来阪の目的では、モノ消費に加えて観光や体験などのコト消費が増加傾向にあり、北摂地域では昨年度、万博記念公園の太陽の塔の再生事業に力を入れてきた。また、箕面の滝もインバウンド人気が高いという。府の担当者は、「各市町村でも府の補助金などを活用していただき、地域の観光資源を活用して観光集客をはかってもらいたい」と話す。また昨年度は地震や台風などの自然災害が大きかったことから、今後は安全面に更に力を入れ、外国人観光客に対して災害発生時の情報提供や避難誘導ができる環境整備



※写真はイメージ



などをより細やかに進める方針だ。大阪では、2019年6月に行われるG20サミットを皮切りとして、ラグビーW杯やワールドマスターズゲーム、万博と世界的なイベントが控えている。府は「さらに多くの人が大阪を訪れる絶好の機会。買い物だけではなく、さまざまな施策、コンテンツなどで国内外の旅行者やリピーターを呼べる仕掛けを作り、大阪の良さを実感してもらいたい」と話している。